



秋冬キャベツの栽培管理について

秋田地区営農センター 工藤 綾乃

● 秋冬キャベツの作型 ※○…播種、●…定植、■…収穫

| 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | |
|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|
| 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| | | | ○ | ○ | | ● | ● | | | | | ■ | ■ | ■ | | | |

● 主な品種

| 品 種 | 収穫目安(定植後) | 品種特性 |
|---------|-----------|--|
| 冬おもい | 70日～75日 | 軟腐病・黒腐病に強い |
| YR彩藍2号 | | 耐病性品種で在圃性に優れる |
| YCRげっこう | | 玉伸びが良い。乾燥や湿害に敏感であるため圃場整備が肝心 |
| あさしお | 75日～80日 | 黒腐病に強く、萎黄病の抵抗性あり 裂球が遅く、耐寒性に優れ収穫期の幅が広い |
| YCRこんごう | 80日～85日 | 根こぶ病・萎黄病抵抗性あり。黒腐病に注意! |

● 定植作業について

秋冬キャベツの定植限界はお盆頃までとなり、定植が遅れてしまうと結球不足等へと繋がります。天候不順等により作業が遅れ、葉の黄化等がみられる場合は液肥(クマイ液肥2号等)を渇ちゅうしてから定植を行いましょう。

● 病害虫防除

残暑や天候不良による病害虫の発生が懸念されます。発生が確認されてからの防除では抑えきれないため、予防防除に努めましょう。

| 対象病害虫 | 薬剤名 | 使用期限 | 希釈倍率 | 散布量 | 使用回数 |
|---------------|-------------|-----------|--------------|-----------------|-------------|
| コナガ・ナメクジ・アオムシ | バダンSG | 収穫14日前 | 1,500倍 | 100～300ℓ/10a | 4回 |
| | ランネット45DF | | 1,000～2,000倍 | | 3回 |
| コナガ・ヨトウ・アオムシ | プレバソンフロアブル5 | 育苗後半～定植当日 | 100倍 | 0.5ℓ/播種用セルトレイ1枚 | 1回 |
| | フェニックス顆粒水和剤 | 収穫前日 | 2,000倍 | 100～300ℓ/10a | 3回 |
| | アフーム乳剤 | | 1,000～2,000倍 | | |
| 根こぶ病 | オラクル顆粒水和剤 | 定植前 | 200倍～500倍 | 0.5ℓ/播種用セルトレイ1枚 | 1回 |
| | ネビジン粉剤 | | — | | 20～30kg/10a |
| 黒腐病・軟腐病・べと病 | Zボルドー水和剤※2 | — | 500倍 | 100～300ℓ/10a | — |
| 菌核病 | ロブラール水和剤 | 収穫7日前 | 1,000倍 | 100～300ℓ/10a | 4回 |

同じ薬剤を連続して使用すると抵抗性により効果が半減します。複数の農薬をローテーションで使用しましょう。

※2…薬害の危険性があるため、結球初期(定植から30日後)までに使用。

● 追肥作業について

大玉をとるためには外葉の大きさを十分に確保することがポイントです。

1回目 定植から2週間後に追肥用資材(NK23号20kg/10a)を畝の肩に行います。

2回目 結球初期(定植から30日後)に外葉の大きさが不十分な場合、1回目と同量を外葉を傷つけないように畝間に行いましょう。